

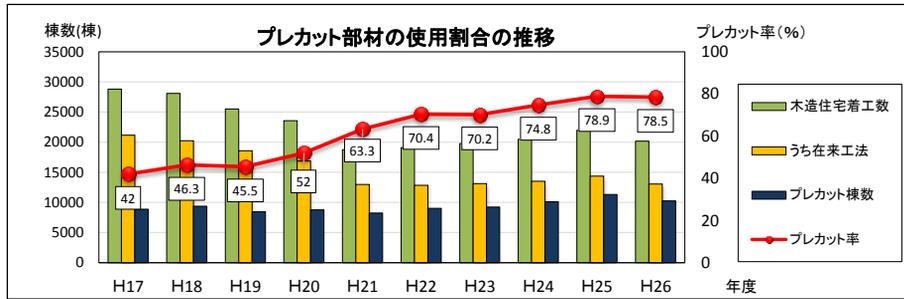
行政の窓

平成26年度プレカット工場実態調査の結果について

木材・木製品の需要に大きな影響を与える木造住宅の建築において、部材の生産及び供給の主流となっているプレカットの、道内の工場についての調査結果をお知らせします。

1. 生産実績

平成26年度のプレカット部材生産実績は、10,237棟（H25実績：11,319棟）、433,595坪（H25実績：473,831坪）で、前年度より棟数で9.6%、坪数で8.5%減少となっている。また、プレカット率は前年度より0.4ポイント低下した。プレカット率が前年度を下回るのは平成23年度以来3年振り。



区分	年度										[プレカット部材生産実績]	
	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	延べ坪数	1棟当たりの建坪数
木造住宅着工数 (A)	28,799	28,094	25,514	23,552	18,752	19,086	19,773	20,493	21,962	20,166		
うち在来工法 (B)	21,144	20,233	18,571	16,862	12,991	12,829	13,115	13,504	14,344	13,043		
プレカット棟数 (C)	8,875	9,369	8,448	8,772	8,225	9,029	9,208	10,100	11,319	10,237		
プレカット率 (C/B)	42.0	46.3	45.5	52.0	63.3	70.4	70.2	74.8	78.9	78.5	H24	419,530
											H25	473,831
											H26	433,595

2. 原材料の使用量及び乾燥状況

原材料の使用量255,114m³の内訳は、製材が136,041m³、集成材が95,116m³となっている。また、国産材の使用量は80,532m³で原材料使用量の31.6%となっている。また、原材料の使用量はプレカット住宅棟数減少のため前年度より7.4%減少した。

【年度別原材料使用量】

(単位: m³, %)

区分	製材				集成材				その他				合計	
	年度	国産材	比率	輸入材	比率	国産材	比率	輸入材	比率	国産材	比率	輸入材		比率
H24		32,378	15.3	72,273	34.1	15,496	7.3	78,347	37.0	3,311	1.6	9,898	4.7	211,703
H25		50,145	18.2	94,087	34.1	23,007	8.3	82,978	30.1	17,119	6.2	8,267	3.0	275,603
H26		43,828	17.2	92,213	36.1	20,888	8.2	74,228	29.1	15,816	6.2	8,141	3.2	255,114

注: 「国産材」は、H25年度から調査し道産材を含む。(H24年度までは国産材は「道産材」のみ調査)

注: 「その他」は、合板、OSB等。

原材料の乾燥状況については、国産材の製材の乾燥比率が62.6%（H25実績：56.6%）、輸入製材が96.3%（H25実績：97.0%）で、前年度より国産材が6ポイント増加、輸入製材は0.7ポイント減少、原材料に占める乾燥材比率は前年度より1.1ポイント増加となっている。なお、集成材とその他は全て乾燥材を使用している。

3. 製品の販売先

製品の販売先は、流通業者向けが4,027棟（39.3%）と最も多く、次いで工務店向けが3,984棟（38.9%）となっている。また、自社使用、ハウスメーカー向けの販売比率が微増となっている。

【製品の販売先 (年度別)】

(単位: 棟, %)

年度	区分	自社使用	工務店	ハウスメーカー	流通業者	その他	合計
H24	棟数	585	3,854	719	4,086	856	10,100
	比率	5.8	38.2	7.1	40.5	8.5	100.0
H25	棟数	988	4,704	835	4,027	765	11,319
	比率	8.7	41.6	7.4	35.6	6.8	100.0
H26	棟数	970	3,984	781	4,027	475	10,237
	比率	9.5	38.9	7.6	39.3	4.6	100.0

※ 本調査は、平成26年度末現在で北海道が把握している31工場を対象に行った。

※ 調査対象は毎年3月末現在で、在来軸組工法における柱・梁・桁等の仕口・継手などの加工を機械で行った部材（プレカット部材）の生産施設を保有している工場である。

(水産林務部林務局林業木材課経営支援グループ)